



課題としていた政府、軍政部の思惑があった。昭和21年(1946年)に農林省(現農林水産省)が「東条川農業水利事業」を国営事業として採択。昭和22(1947)年には、上東条村役場に国営東条川農業水利事業所が設置され、近藤氏の言葉が、ついに現実のものとなる日が近づいた。

しかし、ダム建設に際しては、土井集落住民の立退きが必要となってくる。当然、住民は、住みなれた故郷が永久に湖底に沈むことへの抵抗感や悲しみ、移転後の生活に対する不安などから、交渉は難航。特に、後者に関しては、農地や建造物の評価移転額

などの基準が、当時は法律で明確に示されており、例外は許されなかった。農林省の提示額と、集落内での幾度の協議や、類似地域における補償の研究を積み重ねてきた土井集落住民の要求額の間には、大きな開きがあった。しかし、集落住民と農林省の間に立ち移転交渉に携わった農地委員会が、評価額を農林省に答弁できる最大額まで引き上げるなどの誠意を見せたことや、土井集落住民の苦渋の決断と理解により、ようやく合意にこぎつけた。

こうして、土井集落の移転も完了。ダム建設が昭和24年に起工。築造に必要な骨材は、加古川の川原から採取したほか、GHQの斡旋により、当時の金額で1億円相当のセメントが現物支給された。工事は、クレーンによるコンクリート打設など、最新の土木技術の粋を極めた工事風景や、5トンディーゼルダンプカーなどの巨大な機械は、地域の住民を大きく驚かしたという。

そして、昭和26(1951)年、鴨川ダムが竣工。貯水量約840万トン誇る湖が姿を現した。湖はその形から、名称を「雲龍湖」としては、という意見があったが、土地の名前をつけようと、東条湖となった。そして、湖上に現れたもとも美しい場所に「水天宮」が設けられ、土井集落への感謝の気持ち、湖底に沈んだ神仏への偲、湖がいつも豊かな水をもたらして欲しいという願い、観光地としての発展を記念して守護神が祀られた。

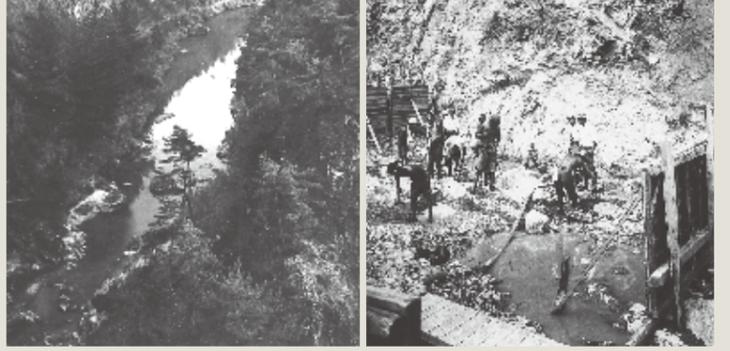
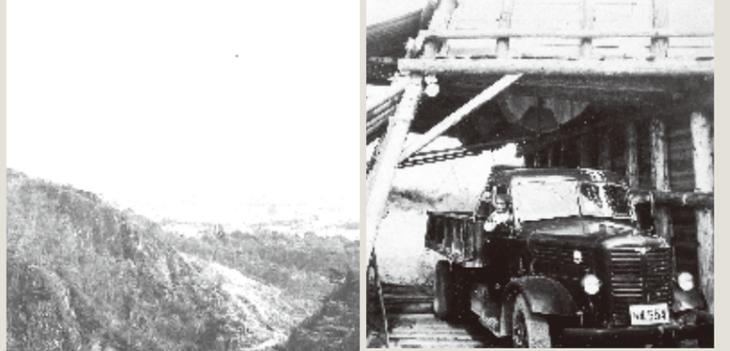
補助ダムと国営幹線水路

しかし、鴨川ダムの約840万トンでは、大地を潤すには、充分ではなかった。そこで、船木池(小野市万勝寺町・昭和34(1959)年完成・アースダム)と、安政池(加東市松沢・昭和38(1963)年完成・アースダム)を調整池とし、この2つの調整池を加えて、約1000万トンの貯水量を目指した。そして、3

つのダムの貯水を受益地末端に送るため「幹線水路」が設置された。幹線水路は、全長約17キロにわたって張り巡らされ、その水路工事は、台地が多いことや、やわらかい地質に対応できる特殊工法による施工が必要であるなど、様々な困難がつきまとったが、昭和39(1964)年に全路線が開通。仕上げの工事も終わり、中学校校体育館で、約500人が参列した事業竣工式を開催。昭和22(1947)年に国営東条川農業水利事業所が開設されて以来、当時の金額で約20億6548万円を費やした一大事業は、ここでひと段落した。幹線水路は、国が設置したものほか、県が設置した県営支線水路、団体が設置した民営支線水路などがある。

同年、鴨川ダムなどの土地改良施設の管理は、兵庫県東播土地改良区が受諾。さらに、後年、県が工事を進めていた県営支線水路の管理も受諾。この水路は、複雑な地形を走る関係で、多彩な工法で築造されており、それだけに維持管理にも、多彩な技術が必要となってくる。

□協力・資料提供 兵庫県東播土地改良区/近畿農政局 □参考文献 東条川工事誌(近畿農政局東条川農業水利事業所)/30周年記念誌(兵庫県東播土地改良区)/兵庫県東播土地改良区50年史(兵庫県東播土地改良区)/地域の人・水・土に学び伝える(東条川疏水授業実践研究会)/東条町史(東条町史編集委員会)/新修加東郡誌(加東郡誌編集委員会)/東はりま路東条湖(東条湖観光協会)/昭和史(半藤一利・平凡社)/加東のため池(加東市) ※発行時の名称 ※記事の内容は、様々な文献に記載された内容を参考にしたもので、それぞれの著者において、同じ情報でも違った見解や解説を示したものもあります。可能な限り、中立な立場で編集しましたが、読者のみなさんにおいて、見解の相違等がある場合があります。



1.在りし日の土井集落 2.兵庫県軍政部司令官と農林省職員 3.近藤準吉氏が目をつけた一筋の割れ目 4.いすゞ型のダンプトラック 5.人力での基礎岩盤処理と清掃作業 6.ブロックコンクリート打設の様子 7.昭和25年11月30日の鴨川ダム工事の様子

途上、上東条村(※)黒谷字土井の標高120㍎の山間で遠慮がちに流れる小さな鴨川、そして四方を山で囲われた典型的な盆地、そこにある一筋の割れ目に着目。その割れ目を塞ぐだけで池になると考えた近藤氏は、「天恵の地形、土井は池になる」と発言した。そして、東条川上流の大川瀬に大貯水池を、鴨川の土井に補助ダムをそれぞれ設け、それらを導水路で結び、広範囲にわたる灌漑・開発を

推進する「東播地方資源開発事業計画」が練られていく。先駆け「昭和池」

一方、旧加東郡北部の農業用水を確保するため、前述の計画の先駆けとして、昭和3(1928)年に、農林大臣から国庫補助の決定を受けた昭和池の築造工事が上福田村山口で先行着工した。工事は、施工業者との工事解約や、溜池新造に対する各地の

思いの相違、日本人・韓国人労働者の多くの犠牲など、様々な困難・苦難を乗り越えながらも、昭和8(1933)年に竣工。以後、昭和池は、早稲時の農民の強い味方となったほか、米の増収にも繋がり、大地だけでなく、地域の経済も潤したという。その後、昭和13(1938)年に、加東・加西・加古、美囊の4郡27町村で構成される「東播地方資源開発期成同盟会」を結成。政府への大規模

戦後の食料政策と鴨川ダム

上東条村…天神村、横谷村、永福村、掲鹿谷村、黒谷村、長貞村、小分谷村、秋津村、森村から構成されていた。 小林網治…中選挙区制における兵庫3区(加東郡、小野市、三木市など、11市郡で構成)から、選出された衆議院議員。農林参与官などを務めた。